

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域社会の一員として双方向のつながりということを大切にしたい理念を作っている。	○	地域とのふれあいをすすめる事で、双方向のつながりを深めていく。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業計画書に理念を明記し、職員に周知、理解させるようにしている。また、職員採用時には理念に即した説明を行い、具体的なケアの場面、場面において理念に即した行動がとれるように指導している。	○	毎日の関わりの中で常に理念が活かされるように取り組んでいきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族の訪問や相談時には理念を根底に説明、対応している。地域においてはアンジュ通信や運営推進会議等で伝えるようにしている。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	周辺の人が日常的に訪問してくれるような状況にはいたっていないが、散歩中の挨拶や周辺の商店の方からは気軽に声を掛けていただいている。	○	利用者に混乱を与えることのない範囲で地域住民とのふれあいを進めていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に入会し、毎年敬老会には招待を受けている。また、地域主催の催し物で参加可能なものがあれば積極的に交流するよう努めている。	○	できることから少しずつ地域の一員として、利用者、職員共に地域活動に参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者の実態については把握しておらず、具体的な活動はしていないが、中学生の職場体験学習等は積極的に受け入れている。	○	運営推進会議等で事業所として地域高齢者福祉に役立つことはないか検討していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を実施するにあたり、職員会議、ユニット会議で、評価の意義の理解と活用に関しての検討会を行っている。	○	ガイドブックでの考え方の指針、着眼点を職員一人ひとりが充分理解し、実践できるよう職員会議の議題にするなどして定期的に取り上げていく。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	単なる報告検討会にならないよう、アプランの事例発表、ターミナルケアについての意見交換会等、委員それぞれの意見を幅広く伺い、サービス向上に努めている。	○	利用者からも意見が出しやすい関係、雰囲気づくりをすすめる。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在は運営推進会議委員の市職員との意見、情報交換が主であり、疑問点や問題点に関しては、指摘、助言を随時頂いている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者、家族から権利擁護に関する相談及び必要とする事例がこれまでないため、全体的な職員の理解度は浅い。しかし、研修等には順次参加するようにしている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議、ユニット会議等の場において、高齢者虐待防止法を中心に自分の言動や行動が虐待にあたらないか注意を促している。	○	全職員が常に自分の言動の振り返りが行えるよう、勉強会の場を設ける。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には契約書、重要事項説明書並びに医療連携体制を中心に説明を行い、質問に関しては補足する文章を明示し、分かりやすいよう工夫している。解約に至る場合は、法人施設との連携を図りながら不安がないようフォローしている。</p>	○	利用者、家族の立場になって、わかりやすく、不安や心配を与えることのない説明や資料を提案する。
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>毎月、利用者自治会を開催し、生活全般にわたっての、意見、不平、苦情等なんでも遠慮なく話し合える場を設けている。</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、各担当職員が近況報告書を作成し、1ヶ月間の様子を報告している。また、金銭出納簿の写し、ユニットたより、アンジュ通信(季刊)等を送付している。</p>	○	近況報告書ばかりでなく、随時、報告・連絡・相談を行うようにする。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議や日頃の面会時における家族の意見を尊重し、意見や要望に関してはユニット会議等で取り上げずぐに対応するようにしている。</p>	○	普段、意見や要望を言われたい家族に対しても、こちらから声を掛け、気軽に言っていたらいいような関係を築いていきたい。
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議、ユニット会議、夜勤者会議等で意見を聞く機会を設けている。会議の場で言いにくい事に関しては提案・要望書を用意している。</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>状況変化に伴う勤務調整は、ユニット間柔軟に話し合い調整している。</p>	○	夜勤者の増員
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動は基本的に行わないようしている。やむを得ない事情が生じた場合も、利用者混乱が生じないよう十分な配慮をしている。</p>	○	利用者、家族に不安、不満をあたえないよう、異動は最小限に抑える。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	○	決められたテーマに基づく事例発表会を行う。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	○	多くの事業所との交流研修、連携を深めていきたい。
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	○	余裕のある人員配置を進める。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護支援専門員、計画作成担当者が先ず話を良く聞き、その時に利用者や家族が望んでいる支援を見極めるようにしている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に家族、本人に見学していただき、地域の様子(商店、神社、お寺等々)、事業所の設備、雰囲気等体感してもらっている。また、要望があればお試し入所のサービスも勧めている。	○	本人が理解し納得してから入所されるよう、十分な期間と家族の理解を促していく。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除、調理、食事、休息の時間を共有することで馴染みの関係作りを行っている。	○	利用者それぞれの個性を大切にしながら、親しくなる中にも人生の先輩として尊ぶ姿勢を職員は常に持つようにする。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思い、利用者の思いの両方を大切に支援している。	○	情報の共有を大切にして、家族、職員とともに利用者を支援していく。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居前の本人、家族の関係性を良く理解して、本人が家族への不安や心配を表したときには、外泊、外出を促したり、両者の思いを聞きより良い関係の構築に努めている。	○	ホーム内での生活に家族も参加できる場面を提供する。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店や行きつけの場所がある方には関係が途切れないような支援をしている。知人、友人の訪問に際しては職員も一緒に話に加わるようにして、和みやすい雰囲気作りに努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の相性は随時配慮し、席やテレビの位置など総合的に気を配っている。時には人間関係の調整役を利用者自身にお願いすることもある。	○	利用者同士の人間関係作りについて利用者の心理を考えながら推し進めて行く。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院された場合は面会に行くなど、関係がまったくなくなってしまうようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの担当職員が中心となり、要望や意向を聞き、実現可能なプランに結びつけるようにしている。伝えられない方には本人の思いを汲み取る努力をしている。	○	利用者本意、自分らしい生活の実現
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報収集を基本に入居後は普段の会話の中や入浴中の何気ないやりとりの中から本人の思いを把握するようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	できることややったらできそうなこと、本人の気持ちが前向きになるような誘い掛けを行い、状態像を正しく掴むようにしている。	○	ひとりひとりの持っている力を発揮できる場面場所の提供
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメント、ケアプラン作成、ケアカンファレンス、モニタリング等全スタッフで意見交換しながら行っている。本人家族の意向はあらたまって聞くこともあるが、普段の関わりの中から、ニーズを探るようにしている。	○	ケアプランを業務の中に取りこみ、毎日実践できる工夫。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1ヶ月毎に評価、見直しを行っている。また、著しい状態変化がある場合は都度ケアカンファレンスを行い、新たなケアプランを作成している。	○	新たなケアプラン作成時には、本人、家族の意見を取り入れる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別記録に記入している。気づきや工夫の記録が少なく、実践に反映できていないところがある。	○	日々の様子だけの記録でなく、そこから気づきにつなげて行けるように情報の共有をする。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院や買物、銀行等への送迎、必要に応じて行っている。	○	直ぐに対応できる外出支援の強化
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員には助言や訪問をしていただいているが、多様な地域資源の活用までには至らない。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	町内会主催の健康体操や講演等参加している。	○	本人の希望があれば事業所以外のサービスを活用していく。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員は運営推進会議に毎回参加していただき、意見交換している。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後も本人家族が希望する主治医の医療を受けられるよう支援している。通院援助、送迎も行い、主治医とは常に相談できる関係にある。		

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	周辺症状が著しい場合等すぐに専門医に受診しており、都度アドバイスをいただいている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師が利用者の居室を個別に尋ね、体調や悩みなど傾聴し、健康相談、管理を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された場合は、定期的にお見舞いし、担当医師、看護師等からの意見も踏まえ、本人が安心して早期に退院できるよう支援している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、重度化指針を家族に提示し、当事業所でのターミナルケアの体制等について、本人、家族が理解した上で、当事業所でのターミナルケアを望まれ場合は、医師の指導の元に取り組む用意がある。	○	看取りに関する、職員の意思統一、準備、検討を怠らないようにする。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化においては本人、家族の意向を尊重し、重度化指針に沿って対応している。障害が重度になったからといって退去していただくことはない。終末期ケアも指針に沿って対応することになるが、これまで実際の取り組み例はない。	○	看取りに関する、職員の意思統一、勉強会を開催する。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	これまでの生活が継続するよう、細かいことまで十分に情報提供を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	外部に個人情報を漏らすことのないよう漏洩防止に努めている。職員にも守秘義務の厳守を命じている。利用者の自尊心やプライバシーを損ねることのないよう常に尊厳のある関わりを心がけている。	○ 尊厳を大切にしたい関わりがいつでもできるよう、職員の意識向上に努める。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で小さな事でも自分で考え決めていただくようにしている。また、職員は決められたことを尊重するようにしている。	○ 些細なことでも本人の自己決定を大切にして、決める意志や力を引き伸ばすようにしたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別支援を重視している。日常業務については最低ラインは決めてあるが、時間は区切っていない。利用者のニーズにいつでも応じられるよう配慮している。	○ 利用者本意の毎日であるよう、職員は意識する。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人が好きなおしゃれができるよう、見守りながら援助している。理美容は行きつけの店がある場合はそれを尊重し、僧でない場合は、本人の要望や気持ちにそった美容室の紹介などを行っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は朝食を除き、法人の給食を利用しているが、月に数回は献立、調理分担等利用者と相談して行っている。	○ 買物、献立、調理一連の流れに利用者に参加していただけるようホーム内調理をさらに推し進める。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ユニット内に喫煙者はいないが、喫煙場所は用意している。好んで飲酒される方もいないが、行事等では随時提供している。好みのおやつ、飲み物などにも配慮している。	○

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	個別の排泄状況を理解し、排泄用具の選択、トイレ誘導をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	目安としての曜日は決めているが、本人が入りたいと希望される時は入れるようにしている。	○	夜間入浴の実施
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	本人の生活パターンを考慮しながら、落ち着き安心して休息できるよう支援している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれが得意とされる事を把握し、役割や楽しみを持った毎日を送っていただけるようにしている。	○	継続的な支援、関わりができるようにする。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が現金を管理し買物も自由にされている方もいる。職員が管理する場合でも自分支払ったりお釣りを貰ったりできるよう支援している。	○	お金を持っていることによる安心感というものを、職員が良く理解する。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの要望、希望をすべて叶えることには限界があるが、希望を聞いてから早いうちに実現できるようにしている。	○	その日の希望をその日の内に叶えられる支援体制を作る。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の希望にそった外出支援はできている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は子機を使い自室から使用できるようにしている。携帯電話の使用も自由であり、年賀状、手紙の代筆等の支援も行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪者とゆっくり過ごせる独立したスペースはないが、気軽に訪問していただける雰囲気をつくり、お茶やお菓子を出すなどして利用者、訪問者に気を配っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒転落の危険性がある利用者に対しては見守りの強化、滑り止め、ベッドの向きを変えるなどして、拘束しない工夫をしている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在はオートロック機能付きの玄関になっており、利用者は自由にはでられない。二階ユニットのため、転落事故のリスクに重きをおいている現状だが、職員は鍵をかけることの弊害については理解している。	○	玄関ドアの改造及び踊り場周辺の安全対策
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	所在は常に把握し、居室内に居られる時もさりげなく見守りをしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状態を考慮しながら、保管管理を行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防災訓練は毎月行っている。事故の大小に関わらず、事故報告書への記入を義務づけ、職員への周知徹底、対応策の協議を行っている。家族への報告相談も行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	職員は消防署から応急手当の職場講習訓練を受けている。急変・事故に対応した応急マニュアルを用意している。	○	定期的な訓練の実施
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練を毎月実施するとともに、町内会の防災部にも訓練の様子を見ていただき、町内会として二次避難援助の協力の約束を得ている。また、地震を想定した総合防災訓練も行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	状態変化に応じ、家族との連携を図りながら、抑圧感や閉塞感を与えることのないようリスク管理を行うようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い、状況によっては看護師、医師に相談できる態勢ある。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイル薬剤情報を綴り、服薬は一人ひとり手渡しして確認している。	○	効能、副作用の把握
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	看護師、栄養士と相談しながら、飲食物を工夫し、散歩等適宜運動するように努めている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの声掛けや指導を行い、自分でできない利用者には職員が手伝ったり、入れ歯洗浄をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	管理栄養士が栄養バランスに基づいたカロリー計算を行い、食事、水分摂取量は職員がチェックしている。体調変化に応じ摂取量の記録を行っている。	○	体調不良に際しては本人が食べたいものを食することができる臨機応変の対応
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	毎年、利用者、職員ともにインフルエンザ予防接種を行っている。各種感染症対応マニュアルを作成し、予防、対応策を講じられるようにしている。また、車椅子、手すり、椅子、トイレ等随時消毒し、職員は手洗い、うがいの励行に努めている。	○	早期発見、早期対応 職員を含め外部からの感染を防ぐ
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	管理栄養士の指導管理のもと食材管理はできている。台所、調理用具等は次亜塩素酸ナトリウム液で除菌に努め、乾燥機を使用している。	○	ルールの遵守徹底
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	玄関の位置や建物の前が駐車場になっているため、分かりづらい面もあるが、プランターや椅子・机を置き、なごみやすい雰囲気作りに努めている。		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	利用者にとって居心地が良く、生活しやすい空間づくりに努めている。廊下の壁に朝顔等季節のものを飾り、花壇で作った花を利用者とともに活かしている。居間からは厨房の様子がよくわかり、常に会話ができるようになっている。	○	利用者が主体となって暮らしの場を整えていく支援を行う。
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	少人数で過ごせる和室(冬季は炬燵使用)をがあるが、段差もあり使用する人がいない。ソファを二つ置き、そこで本を読んだり居眠りしたりしてくつろいでいる。小テーブル等を利用して利用者同士の人間関係には配慮している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に居室には何を持ち込まれても良いようにしており、各自、箆笥や鏡台、仏壇等思いがこめられた物を自由に運びこんでもらっており、ぬくもりのある居室になるようしている。	○	馴染みの物が置いていない居室もある。家族への働きかけ、理解を深めていく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気、室温調整は職員がこまめに行っている。換気扇はエアコン使用時にも温度変化が起きないものを使用し、異臭が生じた場合はすばやく換気し、香を焚くなどしている。		
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり等状態に合わせた配慮をしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱、失敗、不安等一人ひとりの気持ちや状態を押し量って、目印等配慮している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周には小規模であるが花壇、野菜畑をつくり、ベンチをおいている。ベランダには松の盆栽を置きベンチに座って眺められるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)